

目指す学校像	SSH指定校として「自主・自律・創造」の校訓のもと、自ら育んだ高い「志」を実現し、次代を担い国際社会をリードする人材を育成する。
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> SSH指定校としての取組を起点に、全校生徒の「志」を育み、一人ひとりの第一志望の進路を実現する。 自ら課題を発見し、解決する主体的な学習態度を育てるとともに、授業の質を向上させ、社会のリーダーとなる確かな学力を身に付けさせる。 北高生としての品格を高め、健全な心身と豊かな人間性を育む。 地域の理数教育拠点校として活動すると同時に、グローバルな研究活動を展開して国際社会へ開かれた学校に発展させる。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

学 校 自 己 評 価						学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標				年 度 評 価				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> SSHは指定3年目を迎えた。昨年度はSSH全国生徒研究発表会において、サイエンス部地学班が「ポスター賞」を受賞、生物オリンピック全国大会に出場する生徒も出た。SSH指定校としての取り組みが生徒の進路実現に良い影響を与えている。 大学入試センター試験受験者のうち約4分の1の生徒が5教科受験するなど国立志向が高まり、現役国立大学合格者25名の目標を達成できた。一方社会情勢の影響で私大の合格は芳しくなく、指導の難しさを実感している。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> SSH中間報告に向け本校の取り組みを全国に発信してゆき、進路実現でも成果をあげていることを明確にしたい。 生徒が明確な高い「志」を抱き主体性を持って挑戦し学ぶ姿勢を育むと共に、それを実現できる環境整備に努める。 	SSH校としての取組を更に充実させる。	<ol style="list-style-type: none"> 1学年は普通科・理数科生徒の全員が課題研究に前向きに取り組む。 2学年は理数科及び普通科SSC生徒が課題研究で発展的な内容に取り組む。 3学年理数科は2年次の研究内容を論文にまとめ、さらに英語で発表する。 様々なSSH行事を計画的に実行し、より多くの生徒が参加する。 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒全員が自ら研究テーマを設定・研究を実施し、更に発表を行うことができたか。 テーマ設定、研究計画の立案実行から考察迄がしっかりでき論理的に発表できたか。 全員が論文を作成し、英語でポスターセッションを行うことができたか。 SSHサイエンスフィールドワークの種類を増やし参加者も増やすことができたか。 	<ol style="list-style-type: none"> 学校説明会で中学生や保護者に対し課題研究の発表を行い、活動状況をアピールできた。 おおむね評価指標に沿って活動できたが、テーマ設定に時間を要したグループがあった。 理数科3年生は課題研究を論文にまとめ、英語でポスター発表を行なった。 SSH/FWを5種類に増加し、実施ができた。参加延数が124人(昨年比146%)であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> テーマ設定が円滑に行えるよう、事前指導の充実が課題である。 SSH4年目を迎え、生徒に対する効果の検証と改善点を洗い出し、2期目に向けて具体的な方向性を探ることが課題である。 	<p>実施日平成31年2月4日</p> <p>学校関係者からの意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> SSH事業に関する各種取組が、学校で行う授業すべてに関連させ、繋げていくことが望ましい。また、実際に指導を受けている生徒の意識がどのように変化したかなど、生徒の声を評価し、アピールすることが大切である。 フィールドワークを充実させたことは大いに評価できる。 年末・年始の期間、学校における学習の機会を設ける取組は評価できる。
2	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> 全HR教室の電子黒板機能付きプロジェクト等機器整備に加え個人タブレット導入でICT教育を確実に推進している。 授業アンケートは1学期のみ実施された。教員へのフィードバック、保護者アンケートは実施できなかった。 1年生「数理探究」は2単位で課題研究のポスターセッションも全員が実施。プレゼン能力向上のOSTも好評を得た。 2年生のSSCを初めて編成、理数科とともに「数理探究」が展開され、課題学習に対してさらに深めることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用したアクティブラーニングの実践を蓄積し校内の連携を高め、横の連携を密にした授業改善が必要。 授業アンケート、保護者アンケートを実施し、そのフィードバックを実施することによる授業改善が求められる。 1、2年の「数理探究」を通し、自ら課題解決に取り組む学習姿勢をさらに育てていくことが重要。 英語4技能向上を目指し、2年生英語授業でOST実施、GTECスピーキングテスト導入、学校全体で連携が不可欠。 	生徒の学力向上に向けて全校で取り組む授業力向上	<ol style="list-style-type: none"> 1、2年生の「数理探究」において、生徒が主体的に学習課題を見つけて論理的に分析し、計画的な課題解決力をも身につけさせる。 ICT機器をフル活用し、授業支援ソフト等の導入が順調に進め、アクティブラーニングの実践を促進する。 授業アンケート、保護者アンケートを実施し、授業改善に役立てる。 英語4技能向上に対して学校全体での取り組みを推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> 各学期1回の以上の面談及び進路希望調査が実施できたか。 センター試験で600点以上をとれた生徒が20%を超えたか。 北高手帳や、クラッシーを使って学習の自己管理をした生徒が7割を超えたか。スタディーサプリ視聴時間が前年度を超えたか。 	<ol style="list-style-type: none"> 数理探究の課題研究において、論理的に仮説を立て、それに基づいた研究計画が作成されたか。班内分担や共同作業が円滑に行われ、充実したか。 授業支援ソフトの活用が50%を超えたか。 アンケートが実施され、授業改善に役立てられたか。 OST、GTECが組織的かつ協力的に進められたか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ICTの利活用について、他の学校の目標とされるための実践を積み重ね、更なる向上を目指す。 アクティブラーニング型授業の実践を蓄積し、校内の横の連携を密にした授業改善が求められる。 「数理探究」における課題研究の充実が求められる。 英語授業でのOST実施、GTECスピーキングテスト導入について、学校全体の連携が不可欠である。 	<ul style="list-style-type: none"> SSH指定校として、数理探究の充実化は重要な課題である。今までに蓄積してきたノウハウをもとにさらなる発展を期待する。 授業におけるICTの活用については、教員の指導のマナーリ化を招かぬよう、授業アンケートを活用し、使用する教材や指導方法等を常に研究していく必要がある。
3	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> 「自主」「自律」の校訓のもと多くの生徒は落ち着いた高校生活を送っている。 自転車通学、交通機関利用通学がそれぞれ約50%程度だが多くの生徒は安全に登下校をしている。 教育相談が機能し、生徒、保護者と職員、カウンセラーの連携ができる状況になっている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が学校生活の中で主体的に判断し行動できるような活動を促進する。 年々減少している事故件数がゼロになるように職員に喚起を促す。また生徒の主体的な活動を促進する。 教育相談体制を維持、継続させ定着を図る。 	安心、安全な高校生活	<ol style="list-style-type: none"> 生徒が自ら安心安全な高校生活を送れる環境づくりを、風紀委員が中心になり定期的に活動する。教職員がその活動をサポートする活動を行う。 交通安全教室を早期に実施し、生徒の意識向上を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 風紀委員、職員による活動が1年間を通して行われたか。 交通安全教室を実施し、さらに事故件数が減少したか。 	<ol style="list-style-type: none"> 風紀委員、職員ともに1年間計画的に活動を展開した。風紀委員が登下校路の危険な場所を教室掲示するなど、安全な登下校を推進する活動を行った。 年度当初に交通安全教室を実施した。その結果、年間を通して大きな事故は1件もなかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の登下校のマナーアップが課題である。日常的かつ継続的に規範意識を高める取組を推進していく。 校舎への不審者侵入があり、防犯センサーを増設した。引き続き職員全体の防犯意識向上を維持していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 通学路における危険箇所を写真入り地図で示したことは、良い取組である。生徒安全確保のため、交通安全指導の取組は重要である。今後も粘り強く指導を願いたい。 教育相談体制の更なる充実を求める。例えば、さいたま市の中学校で行われている「命の支えあいを学ぶ授業」を参考に、友人同士で良い対応ができるような取組も必要である。
4	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生向けには「自由研究サポートプログラム」「天体観望会」「電子顕微鏡操作体験」を実施し好評であった。 29年度新たに「中学生のための先進的的科学教育プログラム:ASEP Jr. Hi」を実施、参加生徒からは高評価を得た。 SS科学英語実践講座に普通科から多数の生徒が参加し、参加生徒の英語運用能力を高めることができた。 SSHオーストラリアサイエンス研究を今年度から実施。台湾サイエンス研修も内容を見直し、充実したものになった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> アウトリーチプログラムはまだ認知度が低いため、より積極的に外部に宣伝する必要がある。 海外サイエンス研修では事前事後学習をより充実させ、現地での共同研究をより充実したものにする。 	さいたま市内の理数教育の拠点校としての役割を担う	<ol style="list-style-type: none"> 「自由研究サポートプログラム」の内容及び宣伝をより充実させていく。 ASEP Jr. Hi は内容をより充実させ、中学生の科学に対する興味関心を引き出していく。 地域のニーズを踏まえアウトリーチプログラムをより充実したものにしていく。 	<ol style="list-style-type: none"> ①②③様々なアウトリーチプログラムの内容及び宣伝方法に改善が見られたか。 	<ol style="list-style-type: none"> 自由研究サポートプログラムは約500名の参加者があった。 ASEP Jr. Hi は12回講義実習などを実施、昨年に比べ、更なる内容の充実を図ることができた。 新たなイベントを計画実施することができなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 市内の小中学生を対象としたアウトリーチプログラムはかなり充実してきた。 高大連携プログラムの企画が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 理数教育の拠点校として更なる発展を期待する。大宮北高校の教育環境はとて恵まれていてと感じている。これらの環境を有効に活用した学習活動が展開できるよう、学校全体で一層の努力を願いたい。
		タフなグローバル人材の育成	<ol style="list-style-type: none"> 様々なグローバルサイエンスプログラムに向けてSS科学英語実践講座をより充実させていく。 SSHオーストラリアサイエンス研究は昨年の内容を踏まえ、事前学習より充実させ、現地でもより深い知識と経験を積ませていく。 台湾サイエンス研修は生徒が現地環境により接触する時間を増やし、異文化理解を深める。 シンガポール修学旅行においてもサイエンス研修を実施していく 	<ol style="list-style-type: none"> 海外サイエンス研修の内容をより充実させるために事前および事後学習をおこなうことができたか。 ③④④現地の高校生と事前により取りをおこない共同研究をより充実させることができたか。 シンガポール修学旅行においてサイエンスフィールドワークをおこなうことができたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ②オーストラリア研修に向け事前学習を6回実施し、その効果が現地FWで見られた。また、事後学習として個人のスライドを全体でまとめ、成果発表を行なった。 さくらサイエンスプランを利用し台湾松山高級中学の生徒を招き、STEMプログラムなどを展開、3月の台湾訪問に向け友好関係を築くなど、足がかりを作った。 シンガポールデュック大学院大学に訪問することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> SSH予算が削減された場合でも継続可能なグローバルプログラムの開発が課題である。 台湾、シンガポール研修の更なる充実に向け、どのような取組が可能であるか具体化していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 海外の生徒や学校との交流は、北高の生徒にとって非常に良い教育効果を与えている。準備等、大変なことも多いと思われるが、質の高い交流となるよう頑張ってください。

